

麦の穂

発行責任者 医療法人光臨会 理事長 荒木 勇人

107

令和8年
8月20日発行

医療法人 光臨会
荒木脳神経外科病院
Araki Neurosurgical Hospital

開院40年を新たな出発点として

平素より医療法人光臨会に格別のご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

当院は、広島市西区の地に開院して以来、地域の皆様に支えられ、本年7月に開院40年を迎えることとなりました。これまで当院を信頼し受診してくださった患者様、ご家族の皆様、日頃より連携をいただいている医療・介護・福祉関係者の皆様に、深く感謝申し上げます。

40年という節目を迎えた今、私たちが見据えているのは、これまでの歩みを大切にしながら、これからの地域医療にどのように貢献していくかということです。高齢化の進展に伴い、救急医療、在宅復帰支援、介護との連携に対するニーズはますます高まっています。医療機関には限られた医療資源の中で、より質の高い医療を持続的に提供していくことが求められています。

こうした時代の変化の中で、医療法人光臨会は、「皆様に安心していただける全人的な医療と介護を目指します」という理念のもと、予防・医療・介護を一体で担い、地域包括ケアシステムを牽引する新しい地域モデルを光臨会から創り出すというビジョンを掲げています。

その実現に向け、私たちは三つの柱を大切にまいります。

一つ目は、脳疾患に対する専門医療機能のさらなる充実です。当院がこれまで培ってきた脳神経外科領域の専門性を基盤に、急性期医療から回復期リハビリテーション、在宅復帰支援まで、切れ目のない医療を提供できる体制をさらに強化してまいります。

二つ目は、地域密着型の医療機能です。脳疾患に限らず、日常の急な体調変化や救急対応にも幅広く応えられる病院として、広島市西区を中心とした地域の皆様にとって、困った時に相談できる身近な存在であり続けたいと考えています。

三つ目は、地域医療支援病院としての役割強化です。当院は2025年9月、広島市より地域医療支援病院の承認を受けました。今後は、かかりつけ医の先生方、介護・福祉関係者の皆様、救急隊の皆様との連携をさらに深め、検査・入院・救急受入・リハビリテーションなどを通じて、地域全体で患者さんを支える仕組みづくりに貢献してまいります。

2026年4月からは、副院長の磯部尚幸医師が新院長に就任し、県立広島病院で救急救命センター長を務めてこられた楠真二医師を副院長に迎えるなど、新たな病院運営体制が始まりました。地域の医療機関や救急隊との連携を図りながら、救急受入体制のさらなる充実に取り組んでいます。

医療を取り巻く環境は大きく変化しています。しかし、「地域の皆様の尊厳と安心を守り、専門性と温かさをもって地域を支える」という私たちのミッションは変わりません。開院40年を新たな出発点として、職員一同、これからの地域に必要とされる医療法人を目指し、歩みを進めてまいります。

今後とも、医療法人光臨会にご支援とご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和8年7月
医療法人光臨会
理事長 荒木 勇人

もくじ

- 1 開院40年を新たな出発点として
- 2 院長就任のご挨拶
- 3 五福の会の活動を再開しました — 地域の皆様と共に育む —
- 4 令和8年度入職式・新入職員歓迎会 / ハラスメント研修を実施しました / 野球観戦
- 5 開院40周年を迎えて — 感謝とこれからへの歩み —

院長就任のご挨拶



令和8年4月1日付で、荒木脳神経外科病院の4代目の院長に就任いたしました磯部尚幸(いそべなおゆき)と申します。このたび、理事長 荒木勇人が兼任していた院長職を引き継ぐこととなり、身の引き締まる思いでございます。

私は、令和7年4月より広島大学脳神経外科の堀江信貴教授の御高配により、呉医療センターから当院に着任させていただきましたが、勤務はまだ1年と浅く、『副院長』とは名ばかりで、『一脳外科医』としての臨床の仕事しかしておりませんでした。そのため急性期患者を引き受ける一般病棟や救急、外来部門はある程度は把握し得ていると思うのですが当院病床数の半数以上を占める3・4階の回復期リハ病棟をはじめとする他部門については、改めて理解を深めていく必要があると感じております。

当院は、昭和61年7月1日100床で開院し今年で開院40周年の節目を迎えました。平成12年3月に医療法人化し光臨会が設立され、同年4月1日に関連事業部(現介護事業部)が開設、更に令和5年6月には『医療介護複合ビル ARAKI HEALTHCARE PLAZA』がオープンし、介護事業が集約されるとともに『あらき脳・循環器・リハビリクリニック』も開設され、現在病院は3部門から構成される法人の屋台骨でもあります。また開院以来公立公的病院のない西区の中核病院として、24時間救急患者を受け入れ、脳神経外科専門病院として「治し支える病院」を目指し、「地域・患者に選ばれる存在」であり続けることを使命として続けてきた結果、令和7年9月に承認要件として200床以上の病床数を有することが原則とされる「地域医療支援病院」の承認を受け、より一層地域医療への貢献が求められています。

その中で救急医療機能と専門医療機能の更なる強化を図るため、この4月より県立広島病院から長年麻酔・救急医療に従事されてきた楠真二医師と、広島大学脳神経外科から脳磁図を専門とし臨床経験も豊富な岡村朗健医師を迎えました。また看護部長に岡崎ちづる、事務次長に位田倫人、総務部長に井上英昭がそれぞれ就任し、新たな顔ぶれでのスタートとなりました。

現在、医療を取り巻く環境はますます厳しい時代にきています。1974年(昭和49年)から始まった出生率の減少による少子化問題が続いている我が国は、2025年(令和7年)に約800万人の団塊の世代がすべて後期高齢者となり日本の高齢者人口は10年前の約1.5倍に達しました。2040年にはこれまた約800万人の団塊ジュニアが65歳以上となり、高齢化のピークと現役層急減がクロスし、医療・介護・社会保障の支え手が足りなくなるため、厚生労働省から各都道府県に「新たな地域医療構想」を策定するように指示しています。具体的には医療機関を大きく4つ;①急性期拠点機能、②高齢者救急・地域急性期機能、③在宅医療等連携機能、④専門等機能に分けて医療機関の連携・再編・集約化を考えています。当院は、脳神経外科としての専門機能を活かしながら、高齢者救急に対応し得る医療機関として、地域医療に貢献してまいりたいと考えています。職員一人ひとりが働き甲斐を感じられる病院づくりに務めながら、地域の皆様に信頼され、安心していただける病院を目指してまいります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

院長・脳神経外科 磯部 尚幸

五福の会の活動を再開しました - 地域の皆様と共に育む -

新型コロナウイルス感染症の影響により長らく休止していました「五福の会」の活動を、令和8年3月より再開しました。

「五福の会」は、病院と地域社会をつなぐ窓口として平成17年に発足しました。当院の運営状況や取り組みを報告し、地域の有識者の皆さまからいただいた提言や要望を病院運営に反映させることで、地域医療へのさらなる貢献を目指しています。

今回の再開は、地域の皆様に医療や健康に関する情報をお届けするとともに、当院の取り組みを知っていただき、また、地域関係機関の皆様と意見を交わす貴重な機会となりました。

I 五福の会 第38回健康教室

3月24日に、6年ぶりにアラキヘルスケアプラザ3階の大会議室で、58名の方に参加いただいたの開催となりました。テーマは「脳卒中について学びましょうー予防・治療・リハビリテーションー」で理事長荒木勇人が講師をつとめました。また、脳卒中予防十ヶ条や、脳卒中の早期発見に役立つ世界共通の合言葉「FAST」についても紹介し、予防と早期対応の重要性についてお話ししました。参加者の皆様からは、「わかりやすく理解できた」「内容にとっても満足した」などの感想をいただきました。

II 五福の会 定期懇談会

5月11日に、同会場で令和元年以来休会していた懇談会の再開ですが、現会長の県議会議員山本茂様のもと、医師会、行政、警察、消防、郵便局、町内会、民生委員など地域の皆様24名と、職員18名を加えた総勢42名の参加となりました。

はじめに理事長荒木勇人より、病院理念や病院概要、介護保険サービス、保険外リハビリ施設などの関連施設、病院機能の変遷について説明がありました。次に、今後の当院の方向性として3点、①脳疾患専門医療の充実、②地域密着型医療の強化、③地域で暮らす人々を支える病院の実現が示されました。

次に意見交換の場では、参加者の皆様から「医療機関から積極的に医療情報を発信すること」の重要性や「認知症の早期発見・早期治療」の必要性など、多くの貴重なご意見をいただきました。

最後に、4月に、当院の院長が交代しましたが、新体制のもとでも地域医療への貢献をさらに強化していく方針が示されました。

今後も五福の会を通じて、地域の皆様とのつながりを大切にしながら、健康づくりと地域医療の充実に取り組んでまいります。次回の健康教室、定期懇談会にも、皆様のご参加とご意見をお待ちしております。

地域連携推進室

社会福祉士 主任介護支援専門員 尾崎 友哉



3月24日の健康教室



5月11日の定期懇談会

令和8年度入職式・新入職員歓迎会

令和8年4月1日に、新卒職員16名、中途職員8名の計24名の入職式を行いました。入職式では理事長より辞令交付を行いました。

その後、理事長からの講話をはじめ、法人施設の見学、各部門の紹介など、幅広い内容の研修を2日間にわたり実施しました。2日目の夜には、広島サンプラザで法人全体での新入職員歓迎会を実施しました。

さらにその翌日から2日間にかけて、当法人の研修施設である開東館（庄原市西城町）で、主に新卒者を対象とした宿泊研修を行いました。初日は、会長 荒木 攻より新入職員としての考え方などを先達の言葉を交えた講義をはじめ、ジャガイモの植え付けや作務などを行い、夕食後は西城町の上野公園で夜桜見物を満喫しました。2日目はあいにくの雨でしたが、屋内にてチームビルディングなどのグループ研修を行いました。

入職された皆さんは、期待と不安の両方の気持ちを持って入職されたと思います。4日間の諸先輩職員との交流を経て、安心して「ここで頑張っていこう」という思いが育っていく様子が心強く感じられました。

私たちも仲間として温かく支えつつ一緒に歩んでいきます。

総務部 井上 英昭



入職式

ハラスメント研修を実施しました

令和8年4月23日、メイプル法律事務所の根石英行弁護士を講師にお招きし、ハラスメント研修を実施しました。今回の研修では、近年社会的にも関心が高まっているペイシェントハラスメントを中心に、医療現場で起こり得る具体的な事例を交えながらご講演いただきました。令和7年の労働施策総合推進法等の改正により、患者さんやご家族等からのハラスメントに対しても、事業主には雇用管理上必要な措置を講じることが求められるようになります。研修では、医療機関として整備すべき体制、現場職員に求められる基本姿勢、初期対応や記録、組織としての情報共有の重要性など、多岐にわたる内容を学びました。職員一人ひとりが安心して働き、患者さんにも適切な医療を提供し続けるために、日々の職場で実践できる大変有意義な研修となりました。

教育委員 木村 隼人

野球観戦

福利厚生恒例行事であるカープ観戦を6月4日に行いました。当日は梅雨入りが発表され、あいにくの空模様となりましたが、パーティーベランダでの観戦でしたので、屋根もあり参加者は料理を楽しんだり、応援に熱が入ったりと思い思いに楽しく観戦できました。

試合は9回に追いつくも延長12回に勝ち越され、悔しい負け試合となってしまいましたが、職員間の親睦も深まりました。

今後も職員間のつながりをさらに強め、職員一丸となって光臨会を盛り上げていきたいと思っています。

福利厚生委員 山田 浩二



開院40周年を迎えて - 感謝とこれからへの歩み -

令和8年7月吉日

医療法人 光臨会

創立者・会長 荒木 攻

令和8年7月1日、おかげさまで荒木脳神経外科病院は開院40周年という大きな節目を迎えることができました。

この40年間、地域の皆様をはじめ、患者様、御家族、地域の先生方、医療・介護・福祉関係者の皆様、職員、そして当院を支えて下さったすべての方々に、心より感謝申し上げます。

昭和61年7月1日の開院以来、医療の最高の上位概念である「患者中心の医療」を掲げ、「皆様に安心していただける、全人的な医療と介護を目指します」という理念のもとに脳神経疾患を中心とした診療に全力で取り組んでまいりました。

もとより、至らないところは多々あったと思いますが、この間、医療環境が大きく変化する中でも、地域の皆様に寄り添い、安心して受診していただける病院でありたいという思いは、決して変わることはありませんでした。

今日まで歩み続けることができた最大の原動力は、決して充分でない職員数の中で、職員一人ひとりの献身的な努力と、地域の皆様からいただいた温かい信頼です。歴代職員をはじめ、現在共に働く職員の皆さんには深く敬意を表するとともに、心から感謝をしています。

40年という歳月を重ねる中で、私は一つの思いを強くする様になりました。それは、「個人病院」としての出発でしたが、医療法人となり、その後も地域の皆様に育てていただき、広く地域に貢献する「社会的な公器」となったことです。

昨年9月には全国でも数少ない200床未満の「地域医療支援病院」として承認され、地域医療の中核的役割が益々大きくなってまいりました。

40周年は一つの到達点ではありますが、決してゴールではありません。2040年を見据え、光臨会は、「高度脳神経外科専門病院」として、地域に寄り添う「地域密着型病院」として、そして「地域医療支援病院」としての三つの柱を更に充実させ、皆様から託された「社会的な所有物」として責務を果たしてまいります。

40年間の感謝を胸に、これからも地域の信頼に応え、医療・介護・福祉を通じて社会に貢献する「社会的な公器」としてその使命を果たし続けてまいります。

職員一同、初心を忘れることなく、新たな一步を踏み出してまいります故、今後とも変わらぬご支援、ご指導を賜ります様、心よりお願い申し上げます。



開院当時



現在

外来担当医表 **〈荒木脳神経外科病院〉**

			月	火	水	木	金	土
脳神経外科	午前	初 診	江本	中原	岡村	岡村	磯部	广大
		初再診	荒木理事長	磯部		磯部		
					9:00~10:30 荒木理事長		9:00~10:30 荒木理事長	
				荒木会長		荒木会長		
	午後	初再診	磯部	广大	广大	江本	岡村	广大

脳神経内科	午前	初診		荒木睦子 第1・2・4・5		久保田	荒木睦子	
		再診				久保田		荒木睦子
	午後	再診のみ				第1・3・5、 15:00~16:00 荒木睦子		

総合診療	午前	初再診	野村 (循環器内科)	浅本 (消化器内科)	野村 (循環器内科)	浅本 (消化器内科)	藤井 (外科:1週) 野村 (循環器内科: 2・3・4・5週)
	午後	初再診	藤井 (外科)	浅本 (消化器内科)	藤井 (外科)	浅本 (消化器内科)	藤井 (外科:1週) 野村 (循環器内科: 2・3・4・5週)

外来担当医表 **〈あらき脳・循環器・リハビリクリニック〉**

			月	火	水	木	金	土
脳神経外科	午前	初再診			江本	江本	江本	江本
	午後	初再診	江本		江本		江本	江本

脳神経内科	午前	再診のみ				荒木睦子		
-------	----	------	--	--	--	------	--	--

けいれん外来 (小児科)	午前	再診のみ	岸	岸			岸	
	午後	再診のみ		岸		岸	岸	

荒木脳神経外科病院

〒733-0821 広島市西区庚午北2丁目8-7
TEL 082-272-1114 FAX 082-272-1218
E-mail info@arakihp.jp
ホームページアドレス <http://www.arakihp.jp>



ARAKI HEALTHCARE PLAZA

〒733-0821 広島市西区庚午北1丁目5-15

1F 荒木居宅介護支援事業所

TEL 082-507-6300

1F デイサービス あらき

TEL 082-507-6100

2F あらき脳・循環器・リハビリクリニック

TEL 082-208-4114

通所リハビリテーション TEL 082-208-4177

訪問リハビリテーション TEL 082-527-1123

4F あんしんホーム(認知症対応型共同生活介護施設)

TEL 082-507-6600

診察時間

午前 9 時～ 12 時
(初診受付：午前 11 時 30 分迄)
午後 3 時～ 6 時
(初診受付：午後 5 時 30 分迄)

診察予約は

082-272-1114 (代表)

へお電話ください。

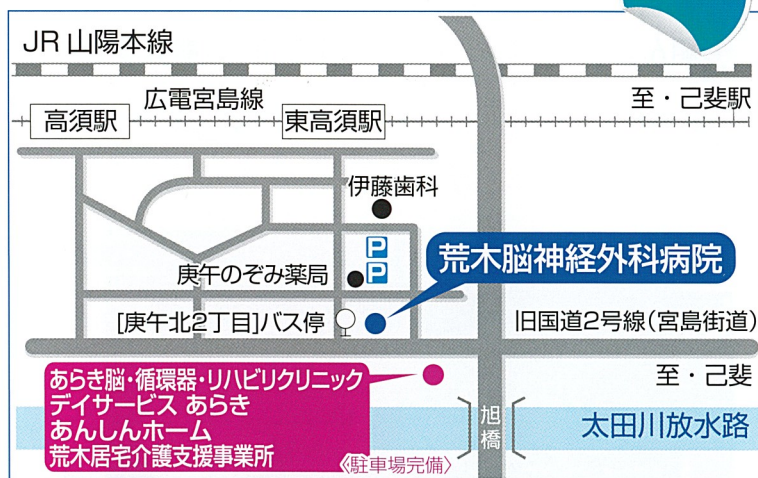
救急は 24 時間受付けております

診察時間

午前 9 時 30 分～ 12 時 30 分
(初診受付：午前 12 時迄)
午後 2 時 30 分～ 5 時 30 分
(初診受付：午後 5 時迄)

※内科 正木先生
毎週火曜

案内図



交通案内

- 自動車
西広島バイパス「庚午出口」より
宮島方向へ100m（宮島街道沿い）
- 広島電鉄・宮島線／「東高須」下車 徒歩3分
- 広島バス25号線 ／「庚午北2丁目」バス停前